

【様式1-1】

新座市 橋梁長寿命化修繕計画

平成30年3月

新座市 都市整備部 道路課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

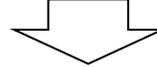
新座市が管理する橋梁は、河川、用水、関越自動車道、西武鉄道と多岐にわたる条件の基で架橋され、現時点で60橋の管理を行っている。その中で長寿命化策定の対象となる橋梁は、比較的規模大きい橋長15.0m以上の橋梁について行うものとし、平成30年3月時点で28橋ある。特に関越自動車道に架かる橋が15橋（54%）を占めている特徴がある。

このうち建設後50年を経過する橋梁は、現時点で0%であるが、20年後の平成49年には、82%に増加する傾向となっている。

これらの高齢化を迎える橋梁に対して、平成24年度まで行っていた事後保全型の維持管理を継続した場合、橋梁の修繕及び架け替えに要する費用が大幅に増加することが懸念される。

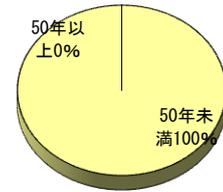
平成29年度

0橋
(0%)



平成49年度

23橋
(82%)



2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的な維持管理を進めていく取組みが不可欠となる。

新座市では、コスト縮減のため、平成24年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、従来の事後保全型の管理から、損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う予防保全型の維持管理へ転換を図り、実施を行ってきた。平成24年度に行った修繕計画策定から5年が経過し、その期間で橋梁点検及び修繕工事を実施した結果を踏まえ、PDCAサイクルにより、さらに現実的で計画的な橋梁の長寿命化修繕計画の精度を上げた見直しを行い、将来的な財政負担の縮減及び道路交通の安全性の確保を図る計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

| | 市道 1級 | 市道 2級 | 市道 その他 | 合計 |
|-----------------|-------|-------|--------|----|
| 全管理橋梁数 | 10 | 10 | 40 | 60 |
| うち計画の対象橋梁数 | 6 | 7 | 15 | 28 |
| うちこれまでの計画策定橋梁数 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| うち平成29年度計画策定橋梁数 | 6 | 7 | 15 | 28 |

長寿命化修繕計画の対象：

- 市が管理している橋梁のうち、比較的規模が大きく、重点的な維持管理が必要な橋梁（15.0m以上）28橋を対象とする。

< 桁下状況 >

- 関越自動車道
- 西武鉄道
- 黒目川
- 柳瀬川

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

5年に1度行われる橋梁定期点検や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。
また、その結果を長寿命化修繕計画に反映させる。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

パトロール車による走行面の変状について点検を行う。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

新座市が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約82%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

様式1-2による

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する28橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が69億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が17億円となり、コスト削減効果は52億円となる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。

